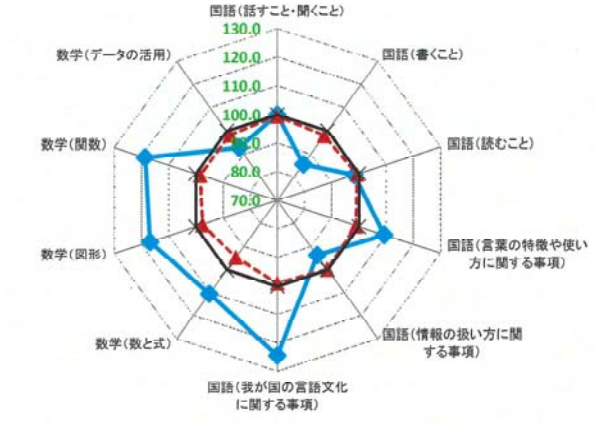
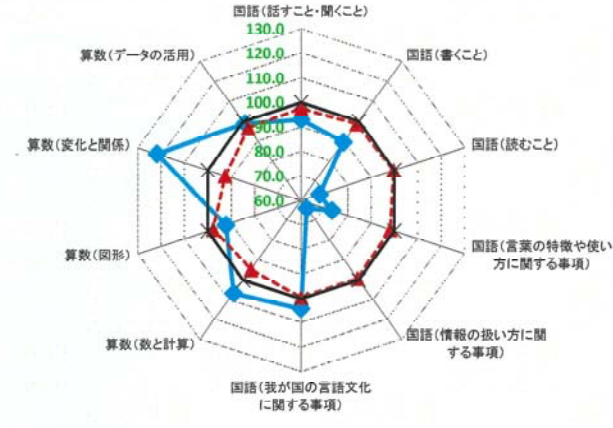


■妹背牛町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:9人）（中学校数:1校、生徒数:17人）

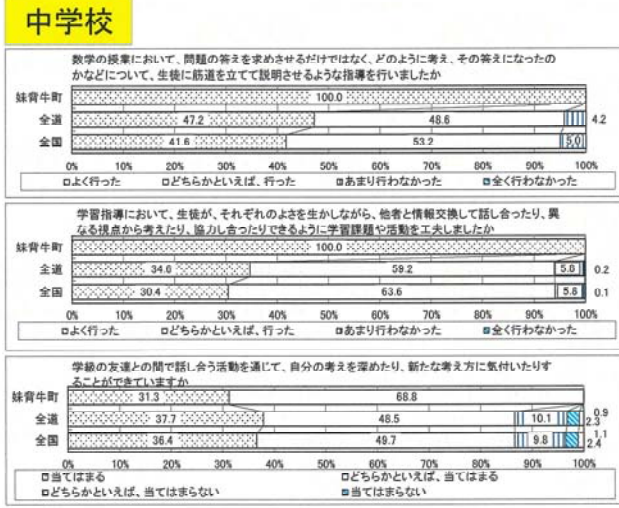
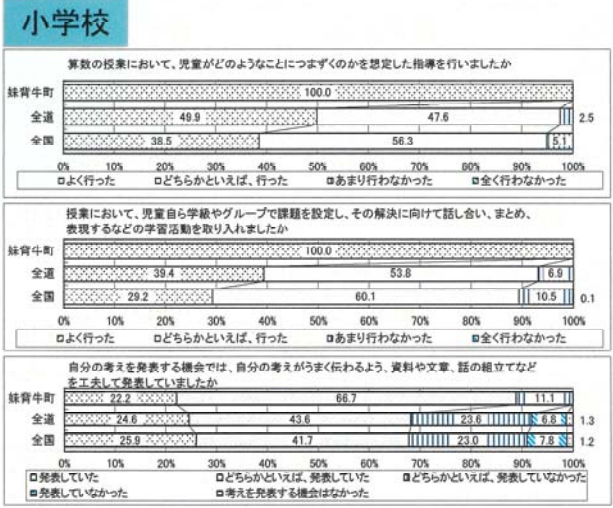
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	54	58
算数・数学	66	57



【質問調査の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、算数の「数と計算」「変化と関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の「数と式」「図形」「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話したり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動をよく工夫したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【妹背牛町の学力向上策】

- ◎ 学力の定着に向けたティーム・ティーチングや習熟度別学習での児童生徒への指導の充実
- ◎ 国語科等で育てた表現力を基軸とした、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりの推進